広島大学大学院医歯薬保健学研究科広報誌　第 10 号

# HIROSHIMA UNIVERSITY BHS NEWS

**Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences**

## 目　次


Preface　巻頭言

「国際的研究力・教育力の強化と REPUTATIONの向上」…… 安井　弥　1

Greetings　ご挨拶

「就任のご挨拶」…… 柿本　直也　2

My Motto　座右の銘

「患者ファーストの医療を実践すること」…… 片岡　健　2

Activities　活動

「米国ワシントン大学留学便りと新講座「ストレス分子動態学」の紹介」…… 齋藤　敦　3

「テキサス大学MDアンダーソンがんセンター（MDACC）との姉妹協定（Global Academic Program: GAP）締結に向けて」…… 永田　靖　4

Research Frontline　研究最前線

「神経細胞のオシレーションに関わる分子メカニズムの解明」…… 橋本　浩一　5

「思春期特発性側弯症の発症メカニズム解明に向けて」…… 宿南　知佐　6

Excellent Paper　すぐれた論文

「肝臓がん300例の全ゲノムを解読－ゲノム構造異常や非コード領域の変異を多数同定－」…… 茶山　一彰　7

Topics　新たな予算獲得

「新たな共用システム導入支援プログラムに採択されました」…… 菅井　基行　8

編集後記…… 保田　浩志　8


## 国際的研究力・教育力の強化とREPUTATIONの向上

医歯薬保健学研究院長・研究科長　安井　弥

越智学長の就任以来１年半の間に、国際交流に関する大学間協定の締結はすでに42（アジア・オセアニア29、ヨーロッパ7、中東5、中南米1）を数え、総数で約200の大学・研究機関となっています。霞における学部・研究科・病院レベルでの部局間協定も最近大きく数を延ばしています。これをしっかりと国際共同研究、留学生の獲得、海外への留学者の増加につなげる必要があります。国際共同研究の推進のひとつとして、がん研究・診療の最高峰である米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとのGlobal Academic Program（GAP）のキックオフミーティングとして、本年７月に合同国際シンポジウムを行いました。先方からは、放射線治療で長く世界のトップを走っておられる広島大学出身のRitsuko Komaki先生、GAP担当のOliver Bogler先生ほか計10名が参加し、広島大学からは永田 靖先生をはじめ９名が最新の研究成果を発表しました。今後の共同研究の対象として、放射線治療の他、肺がん、肝がん、消化管がんなどが候補に挙がっています。幸い、向こうには当研究室の出身者がスタッフとして３名、ポスドクとして１名働いており、彼らを通して、具体的な共同研究の検討を始めたところです。また、医学研究実習の医学科４年の学生を本年度初めて派遣しました。関連の先生方のご協力をお願いいたします。

近年、国内学会においても国際化が進んでおり、海外からの演題、参加者は年々増加しています。去る８月に高田 隆先生が主催された日本臨床口腔病理学会は完全英語化で行われ、海外からの参加者が１／３を占めていました。来年３月に広島で開催する日本胃癌学会も主題はすべて英語での発表とし、海外からの一般演題も100近くにおよびます。このような学会開催も海外における広島大学のreputationの向上に貢献するものと考えています。一方で、以前より指摘されている日本の医学生・医師の英語力不足は深刻です。日本語で十分に高いレベルの教育・研究が行われている、日本語でないと細かいニュアンスが伝わらない、との意見もありますが、それではグローバル化した世界では何の情報も発信することはできません。本年度から、学部・大学院ともに講義スライド・資料の英語化を徹底しました。また、12月の研究科FDは学生にも参加を呼びかけ、海外日本人研究者ネットワークの会長である佐々木敦朗先生に、海外で活躍するためのノウハウとサポートについてお話ししていただく予定です。本学は今年４月から、すべての教員募集を国際公募としています。広島大学の教員になるためにも、国際競争を勝ち抜かなければならないということを、学生には十分に認識させる必要があります。

テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとのGAP締結に向けた覚書を締結

広島大学